

令和 2 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370600512		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホームいいとよ 南乃家		
所在地	〒024-0004 岩手県北上市村崎野12-74-28		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	令和3年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園に囲まれたのどかな環境であり、近くに県立病院、同法人の包括支援センターがある。敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービス、介護保険相談室やヘルパーステーションがある。介護理念に沿ったケアを目指し、毎月チーム目標を設定し取り組んでいる。「毎日笑い合える日々」を大切に、利用者様、職員ともに穏やかに楽しく過ごせるよう職員一同努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園地帯にある広い敷地内に同法人の特養やデイサービスセンター、保育園が隣接しており、近くには県立中部病院もある。県内での新型コロナウイルス感染拡大に伴い部外者の施設への立入制限、家族の面会中止など感染防止対策は一層厳しくなっている。外出自粛の中で、施設周辺の散歩時に隣接する保育園の園児と手を振り合えることは、利用者にとって、元気をもらい楽しいひと時である。今年の4月に職員全員参加で意見を出し合って新しくした理念は、利用者や地域に寄り添った具体的でわかりやすく、日々の介護サービスに活かされている。地域との交流についても注力して来ているが、今年はコロナ禍のために、残念ながら十分には出来ていない。また、かかりつけ医とは連携が上手く取れており、併せて看取りの取り組みも進められるなど、医療連携体制が適切に機能している。家族会が組織され、交流会の開催や運営推進会議への参加等を通じ、良好な関係が築かれている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、施設独自の介護理念を作成している。3年を目安に見直し更新している。理念に沿ったケアができるよう、毎月チーム目標を設定し、振り返りを行っている。	事業所理念は2、3年毎に、全職員が参加して作成しており、今年の4月に新しくなった理念を職員会議で唱和し職員の意識付けを図ると共に、実践に活かされ利用者に寄り添った介護サービスが提供されている。また、理念を基本として、毎月のチーム目標を具体的に定めて日常のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入。地区行事への参加。施設行事がある際は回覧板を回し呼びかけをしている。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加しているが、今年はコロナ禍のために中止になったものが多い。隣接する保育所の園児とは日常的に交流している。地元の小中学校との交流活動を積極的に進める予定であったが、止む無く今年中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや職場体験の際に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。事業所の現状や取り組み、研修・行事報告を行っている。今年度は新型コロナウイルスの影響にて書面での通知となっている。	委員は民生委員、健全育成協議会長、家族会、地域包括支援センター職員等で構成されている。今年5月以降、コロナ禍のため書面開催となっており、運営状況や行事報告等を資料でお示しながら、意見を伺っている。委員からはコロナ対策等の質問が寄せられている。	法人が受託している地域包括支援センターの職員は委員として参加していますが、行政の職員が参加していない状況にあります。運営推進会議を通じて事業所と行政との連携を深める観点から、何らかの方策を講じられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の変更・更新の手続きの支援。必要に応じて連絡を取っている。	要介護認定申請に際しては、管理者が市の介護担当課に出向いて手続きや相談を行っている。行政からの様々な連絡や通知等は、電話やメールでのやり取りも多い。また、行政主催の会議や研修会には法人の担当職員が出席することが多い。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関感知センサー、離床センサー等必要に応じて使用しているが、外していけるよう毎月の委員会で話し合いをしている。年2回内部研修も行っている。	身体拘束適正化に関する指針を作成済みであり、全職員が参加して毎月委員会を開催している。身体拘束に関する研修会は年2回行っている。5人が使用している離床感知等のセンサーについては、家族に説明し理解を得ている。スピーチロックについても、ほぼ毎回の職員会議で話題とし、相互に注意を喚起し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、周知徹底を図り、毎月の委員会でもケアの振り返りや不適切なケアがないか話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、資料等で情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に沿って説明し、疑問点や不安点が残らないよう心掛けている。加算の必要性や料金の改定がある際は、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当が毎月の状況を写真を添えて文章にて家族様に報告している。今年度は新型コロナウイルスの影響にて面会禁止や家族交流会の中止となっているが、オンライン面会や窓越しでの面会、こまめな電話連絡で状況を伝えたり、要望を聞くようにしている。	家族には毎月、利用者の生活状況をお知らせしている。コロナ禍による面会制限で、家族との面談機会は限られるが、電話等により要望等を伺っている。家族からは、寒さ対策などの要望があり対応している。オンライン面会も出来るようにしたが、まだ利用する家族はなく、利用を勧めたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や委員会で困難事例や環境整備等があれば改善策を話し合い、管理者へ報告、相談している。	職員からは毎月の職員会議で意見が出されており、例えば、入浴の際の機械浴と一般浴との振り分け方等について改善している。2、3ヵ月毎に管理責任者である介護主任と職員との個人面談を行い、職員が抱える悩みや思いにも対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善Ⅰ、特定処遇改善加算Ⅰの取得、確実な有給休暇・介護休暇の取得、研修参加の受講費用や交通費の補助。永年勤続表彰など。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った外部研修への参加。施設内では一人一人個人目標を設定し、定期的に主任と面談を行い目標クリアに向けて取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加。協会の研修や会議への参加にて情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や入居時に本人様や家族様から困っている事、不安な事や要望を確認している。これまでの経緯や生活歴を把握し安心して過ごせるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や申し込み時に、入居に関して困っている事、不安な事や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様から状態や要望を確認し、担当ケアマネ等とも話し合い、状況に応じて他のサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人出来る事や得意なことを見極め、職員と一緒に洗濯物たたみや食器拭きを行っている他、漬物作りなどを教えて頂いている。		

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の状況を書いたお手紙を送付し、状況に応じて電話での報告をしている。年4回の広報誌送付や年3回の家族交流会を設けている。(今年度は交流会はすべて中止となっている。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響にて現在は窓越しやオンラインでの面会となっており、外出は出来ない状況である。感染対策を十分にとりながら通院付きそい等を行っている。	コロナ禍の影響を受け、家族や友人の来訪と面会機会が殆どなくなり、通院が貴重な外出の機会となったり、所用で事業所を訪れる方が馴染みの人となっている。散髪のため訪れる花巻市内の理容院の方とは良き話し相手でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士で座ってもらったり、関係性や相性を考慮したテーブル席にしている。会話がスムーズにできるよう職員が間に入り支援し、レクの際は全員が参加し楽しめるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談できること、必要時には支援出来るよう声をかけている。退去後も家族様が来苑して下さることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様から希望・意向を聴き、情報を集めている。日々の会話や言動から想いを汲み取り引き出し、ケース記録や申し送り等で職員間での情報共有をしている。	利用者の中で、全体の2/3ほどの方が、その思いや意向を言葉で表現できている。家に帰りたいとか食べ物の希望が良く出される。食べ物については、献立に反映したり、家族から嗜好品を持ってきてもらうこともある。それぞれの意向等は、利用者情報として職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて家族様や担当ケアマネから情報収集している。了承を得て他サービス利用時の状況を聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事や毎日の過ごし方を把握するのはもちろん、その日の体調や言動についても記録に残し情報共有している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に計画作成担当者、介護主任、居室担当で話し合い見直しを行っている。本人様、家族様の要望や状態の変化に応じて都度見直しをかけている。	計画作成担当者が作成した原案をもとに、職員カンファレンスで検討のうえ、介護計画を決定している。計画の見直しは、主として居室担当職員がモニタリングを行い、かかりつけ医の診療状況等も参考にしながら、概ね3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事を細かく記録し、情報共有して介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況やニーズに合わせて可能な限り通院介助や訪問美容等の対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。保育園の子供達が散歩の途中で寄ってくれたりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続するようにしている。受診時には状態等の記録を渡している。必要時に応じて職員が同行し様子を伝えている。重度化にて受診が困難になった場合は系列法人の訪問診療を勧めている。	全体で13人の利用者が、法人系列の市内クリニックをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。他の利用者は、入居前からのかかりつけ医を継続受診している。歯科も訪問診療を受け、看護については訪問看護ステーションを利用するなど、医療との良好な関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列法人の訪問看護と契約しており、週1回の訪問日に状況や気になる事を報告している他、急変時には電話連絡にて報告し指示をもらっている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に病院へ情報を提供している。退院前にはカンファに参加し受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りを行っている事を説明し意向を確認している。状態が変わる都度医師より説明を受け話し合いを重ねている。職員間でも情報を周知し対応している。	利用者と家族には、入居時に重度化した場合の対応や看取りも行っていることを説明し、同意を得ている。今年1人、昨年は2人を看取りしているが、協力医療機関の医師の協力を得て、職員も安心して対応できている。看取りについて、家族から親身な対応を感謝されることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは定期的に見直しをかけている。ファイリングしていつでも確認できるようにしている 他、電話連絡・救急車要請等のマニュアルは目につく場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(夏・冬)避難訓練を行っている。夏は消防立ち合いのもと、地域の方にも参加して頂いているが今年新型コロナウイルスの影響にて職員のみでの訓練となっている。冬は日暮時に行い暗い中での訓練をしている。また、日中空いた時間で利用者様のADL確認も兼ねて避難場所まで歩クミニ避難訓練を随時行っている。	ハザードマップで浸水や土砂災害の危険地域となっていない。年2回、全体で避難訓練を実施しており、自治会役員や近所の住民にも参加していただいている。今年の夏はコロナの影響で消防も施設に入れず、職員と利用者のみで火災避難訓練を行った。2月には日暮れ時に夜間想定訓練を予定している。また、全職員の避難訓練体験が必要と考え、随時、ミニ避難訓練を行い災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の会議で再確認をしている。自尊心を傷つけないよう穏やかな声がけを心掛けている。入浴や排泄などプライバシーの配慮にも気をつけている。	人格の尊重とプライバシーの確保に留意し、特に入浴や排泄のケアにおいては、耳元で小声で声掛けしたり、指さして示したりの配慮を行っている。排泄の失敗時には、さりげない声掛けとケアで心を傷つけないようにしている。入浴の際には、男女の利用者がすれ違わないような配慮も行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合ったコミュニケーション方法を見出し、表情や少しの発語などから思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れは決まっているが、一人一人のペースや訴えに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に整容の支援をしている。気候に合った服装や好みの色の服を選んだりしている。利用者様によってはマニキュアを塗っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った献立作りや、週1回の選択メニュー、行事食を提供している。利用者様の希望を献立に取り入れたりと美味しく楽しく食事ができるよう努めている。食事準備や後片付けは出来る範囲で一緒に行っている。	職員が献立と調理を行い、利用者の希望を出来るだけ献立に反映するようにしている。利用者も草取りなどを手伝っている駐車場脇の畑で、ネギ、茄子、ピーマンなどの野菜を育て、食材として活用している。料理の盛付け、食器・おしぼり洗いなど利用者個々の役割を尊重しながら、一緒に食事を楽しんでいる。誕生日にはケーキを提供するほか、ひな祭りや寿司の日等の行事食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録して情報共有し、毎月の体重測定を行い増減を把握するようにしている。一人一人の嚥下や咀嚼状態により食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯のある方は夜間消毒している。必要に応じて歯科受診し、その後も定期受診を行っている。食前の口腔マッサージや、口腔体操も行っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけて個々の排泄パターンに合わせた時間でトイレ誘導を行っている。二人介助でトイレ誘導をしたり、夜間はパット交換など状態に合わせて支援法を変えている。状態が変わる都度、委員会で話し合い対応を検討している。	利用者毎の排泄記録をもとに、適時のトイレ誘導を行い、状態が悪化しないよう支援に努めている。布パンツで自立の方が1人、オムツ使用の方が1人の他は、リハビリパンツとパットを併用している。誘導時に2人介助を要する方もいるが、トイレでの排泄の維持を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤での調整を行っている方もいるが、出来るだけ自然排便を促すよう、レクや散歩で体を動かしたり、食物繊維の多い食材を献立に取り入れている他、牛乳や寒天を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としパターンは決まってはいるが、拒否のある方は時間帯をずらしたりと個々の状況に応じて対応している。身体状態によって機械浴での入浴や清拭対応をしている。入浴剤やアヒルのおもちゃなどでリラックスしながら入浴できるよう努めている。	週3回の入浴を基本にしている。南棟は機械浴槽、北棟は一般浴槽であるが、機械浴利用の方が7割程と多くなってきている。入浴中は職員との会話を楽しむ方が多く、バラ湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家にいた時と同じような家具配置にしたり、身体状態に合わせてベッド等の配置を変えている。室温や掛物での調節、場合によっては湯たんぽを使用したりと臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイリングして確認できるようにしている。薬の変更や頓服薬が出た場合は、確実に申し送りして周知徹底し状態観察に努めている。状態変化があった際は、受診時や訪問診療時に随時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や覚えている事、好きなもの等に合わせて、食器拭きや洗濯物たたみ、漬物作りなどを手伝って頂いている他、花が好きな方には切り花などを見ながら談笑したり、猫が好きな方には施設で飼っている猫と触れ合ったりと楽しみながら生活できるよう努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物や花見、地域の祭りなどで外出しているが、今年は新型コロナウイルスの影響にて自粛している。畑で野菜の収穫、ごみ捨てを一緒にいたり、天気の良い日は日光浴をしたり等少しの時間でも外の空気に触れる機会を作っている。	外出支援はコロナ禍によって大きな影響を受け、なかなか出掛けることが出来なくなっている。これまでは、お花見や地域の運動会等によく出掛けていたが、今は畑作業やごみステーションに出かけたり、外気浴で外に出たりに留まっている。隣接の保育園児の様子を見物することは、利用者の楽しみの一つである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力の面から事務所での預かりの他、ほとんどの方は立替払いでの対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を使用できる。手紙を書ける方は書いたものを家族様に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに花を飾り、利用者様の作品や日々の写真を掲示し季節に合った飾り付けをしている。床暖房、各居室にエアコン設置し、各ユニット毎に過ごしやすいようソファやテーブルを配置している。	天窓から日差しが差し込むホールには、テーブルとソファがゆったりと配置されている。壁面には季節感あるクリスマスの飾り付けや、利用者の切り絵作品、行事での写真等が飾られて、暖かい雰囲気となっている。室温はエアコンと床暖房で適温に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ソファや居室前・浴室前ベンチなど好きな場所で過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・エアコン・洗面台が備え付けてある。持ち込みに特に制限なくテレビや今まで使用していた衣装ケース等配置している。	居室にはベッドと洗面台、籐タンスが備付けられ、利用者はテレビや、衣装ケース、家族写真などを持ち込んでいる。また、編み物などの自分の作品を飾っている利用者もおり、居心地の良い居室となっている。室温はエアコンと床暖房とで適温に保たれている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレには名前をつけて分かるようにしている。個々の身体状態に応じて動線を考えた家具の配置にしている他、ぶつかりやすい棧や手摺の角を保護している。		